

長期戦略:テーマ 「カリキュラムの基本構造の改革」

Ⅱ.実施計画帳票

構想調書 1(5)①

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	山田教務機構長 (教務機構)	実施計画の 担当部署	担当部署 教務機構
-----------------------	-------------------	---------------	--------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(12)-⑤ (SGU2-4-3) (SGU2-4-3) ナンバリングの拡充(全科目)	2014 年度	2023 年度	必要なし	不要
内容				
<p>学部、研究科で開講される科目の体系性と難易度を明確にし、学生に体系的・段階的な履修を促すため、教育課程表に記載されているすべての科目にコードを附す科目の「ナンバリング」を全学的に推進する。また、これらの取組を通じて、海外大学からの留学生にとって授業レベルを分かりやすくするとともに、海外大学との単位互換作業を円滑に行うことも視野に入れており、本学の教育の国際通用性の向上をはかることも念頭におき、これを推進する。なお、付されたコードは教育課程表で明示するとともに、今後のシステム改修を経て、シラバスや科目履修画面での明示、成績証明書への記載(英文証明書のみ)も行い、ナンバリングの実質化を推進する(コード体系:レベルコード3桁)。</p> <p>具体的な科目のコード体系については、教務委員会および大学院教務学生委員会傘下のFD部会での議論を経て、整備を推進するが概ね次のような流れを想定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教務機構内で原案の作成 ② 教育力向上部会(学部)、大学院ファカルティ・ディベロップメント部会での検討、全学共通教育部会(学部)での全学科目ナンバリングの検討 ③ 教務委員会、大学院教務学生委員会での協議 ④ 各学部、研究科、センター、プログラム室での各科目のナンバリング作業 ⑤ システム等の改修 				

進捗状況を測る 指標	指標名	定義・算式
指標1	1(5)① ナンバリング実施状況・割合	ナンバリングを行っている授業科目数 うち学部（毎年度5月1日時点）
指標2	1(5)① ナンバリング実施状況・割合	ナンバリングを行っている授業科目数 うち大学院（毎年度5月1日時点）
指標3	参照指標	全授業科目数 うち学部（毎年度5月1日時点） ※不開講科目を含む
指標4	参照指標	全授業科目数 うち大学院（毎年度5月1日時点） ※不開講科目を含む

目標1<指標1>ナンバリングを行っている授業科目数うち学部

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	1132科目	—	—	3750科目
実績	663科目	1189科目	3326科目	3760科目	3689科目	3601科目
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	3800科目		
実績	3580科目	3854科目	4163科目			

目標2<指標2>ナンバリングを行っている授業科目数うち大学院

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	248科目	—	—	1325科目
実績	0	0	0	1253科目	1356科目	1308科目
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	1350科目		
実績	1302科目	1302科目	1377科目			

目標3<指標3>参照指標 全授業科目数うち学部(毎年度5月1日時点)※不開講科目を含む

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標			3700科目			3750科目
実績	3651科目	3695科目	3686科目	3776科目	3689科目	3601科目
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標				3800科目		
実績	3580科目	3854科目	4163科目			

目標4<指標4>参照指標 全授業科目数うち大学院(毎年度5月1日時点)※不開講科目を含む

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標			1300科目			1325科目
実績	1330科目	1286科目	1247科目	1257科目	1356科目	1308科目
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標				1350		
実績	1302科目	1302科目	1377科目			

2. 実施計画:ロードマップ

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
ナンバリングの拡充 (全科目)【学部】	策定段階	順次実施					
	2023年3月末段階	体系案協議	各学部、全学科目等でナンバリング作業	順次公開 システム改修要件定義	システム改修	システム改修完了	
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	完了	完了				
	2023年3月末段階	—	—	完了	完了	完了	
			2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階						
	2023年3月末段階	完了					
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
ナンバリングの拡充 (全科目)【大学院】	策定段階	順次実施					
	2023年3月末段階		体系案協議	各研究科、共通科目等でナンバリング作業	順次公開	システム改修完了	
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	完了	完了				
	2023年3月末段階	—	—	完了	完了	完了	
			2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階						
	2023年3月末段階	完了					

3. 実施計画:費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】						
非公開						
経費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
人員・人件費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
経費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度承認	2024年度以降	
非公開						
人員・人件費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度承認	2024年度以降	
非公開						

4. 進捗状況・得られた成果

2016 年度	<p>■1(5)① ※ナンバリング実施状況・割合【学部】</p> <p>2014 年度に FD 部会、教務委員会で全学的なナンバリング体系は承認され、2015 年度以降各学部にてナンバリング作業を順次行った。現状、教育課程表上にナンバーを記載し、公開している。</p> <p>次期リプレース時にシラバス上等でナンバーが確認できるように改修する。</p> <p>■1(5)① ※ナンバリング実施状況・割合【大学院】</p> <p>2015 年度より FD 部会、大学院教務学生委員会で議論を開始し、承認された。2016 年度より、各研究科にてナンバリング作業を行い、各科目にナンバーが付与された。次期リプレース時にシラバス上等でナンバーが確認できるように改修する。</p>
2017 年度	学部・大学院ともにほぼ全科目へのナンバリング作業が完了した。学生への周知媒体に関しては、前年度と変更はないが、システムへのナンバリング情報登録のため、科目一覧の準備等作業を進めた。
2018 年度	科目へのナンバー付与率が 100%となった。またシステム改修により 2019 年度からは学生システム上の科目名称には科目ナンバーがセットで表示される。(シラバス、科目履修画面、成績表、英文成績証明書等)。
2019 年度	科目へのナンバー付与率が 100%となり、学生システム上でも科目名称と科目ナンバーをセットで確認できるようになった。
2020 年度	2019 年度同様に、科目へのナンバー付与率は 100%であり、学生システム上でも科目名称と科目ナンバーをセットで確認できる状況である。
2021 年度	同上

5. 今後の課題及び方向性

2018 年度	計画は大幅に前倒しで進んでおり、科目へのナンバー付与作業もほぼ 100%に近づいている。 今後は、科目の難易度を示すナンバーがシラバスや成績表等にも反映されることで学生が履修の際にナンバリングを意識する文化を醸成することが肝要。
2019 年度	科目へのナンバー付与率が 100%となった。またシステム改修により 2019 年度からは学生システム上の科目名称には科目ナンバーがセットで表示される。(シラバス、科目履修画面、成績表、英文成績証明書等)。学生がナンバリングを意識する環境が整うことにより、ナンバリングを意識する文化をさらに醸成することが課題である。
2020 年度	学生が履修する際に、ナンバリングを参照して学修を体系的に修めてもらえるような見せ方を工夫することが今後の課題としてあげられる。
2021 年度	科目へのナンバー付与率が 100%となり、学生システム上でも科目名称と科目ナンバーをセットで確認できるようになったため、本実施計画は完了としたい。
2022 年度	—
2023 年度	—

6. 学院総合企画会議の基本方針

2014 年度	—
2015 年度	—
2016 年度	—
2017 年度	—
2018 年度	—
2019 年度	—
2020 年度	—
2021 年度	保守費(年額)については、これまで SGU 関連分を切り分けて計上していましたが、他と一体的に運用されているため、22 年度より計上を不要とします。
2022 年度	—

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・すべての科目におけるナンバリングが終了している。	継続 ・ <input type="checkbox"/> 廃止	・フェーズ1にて完了とする。

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	